



Maintenance メニューの使い方

この章では、Element Manager の Maintenance メニューで実行できる作業について説明します。内容は次のとおりです。

- [基本的なシステム情報の表示 \(p.5-2\)](#)
- [基本的なシステム情報の設定 \(p.5-3\)](#)
- [日時のプロパティの設定 \(p.5-5\)](#)
- [ローカル タイム ゾーンと夏時間の設定 \(p.5-6\)](#)
- [基本サービスの設定 \(p.5-8\)](#)
- [ブート設定のカスタマイズ \(p.5-18\)](#)
- [実行コンフィギュレーションファイルのバックアップ \(p.5-19\)](#)
- [ファイル システムのファイルの表示と削除 \(p.5-20\)](#)
- [ソフトウェア イメージのインストール \(p.5-23\)](#)
- [コンフィギュレーション ファイルとイメージファイルのインポート \(p.5-27\)](#)
- [コンフィギュレーション ファイルおよびログ ファイルのエクスポート \(p.5-29\)](#)
- [コンフィギュレーション ファイルの保存 \(p.5-31\)](#)
- [Element Manager を使用したサーバスイッチのリポート \(p.5-31\)](#)
- [一般的な診断の実行 \(p.5-32\)](#)
- [POST 診断の表示 \(p.5-35\)](#)
- [FRU 診断の表示 \(p.5-37\)](#)



(注)

Maintenance メニューでは、サーバスイッチを監視し、基本的な動作を設定できます。

基本的なシステム情報の表示

基本的なシステム情報とは、デバイスおよびサポート リソースの名前や場所などです。

基本的なシステム情報を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューから、**System Info** を選択します。

System Info ウィンドウが開きます。このウィンドウのフィールドについては、[表 5-1](#) を参照してください。

表 5-1 System Info のフィールド

フィールド	説明
Description	シャーシおよびそのシャーシで稼働しているイメージの説明
System Uptime	最後のブート後のシャーシの稼働時間
Last Change Made At	ユーザが実行コンフィギュレーションを最後に変更した日時
Last Config Saved At	ユーザが実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションとして最後に保存した日時
System Name	そのサーバスイッチの名前（設定可能）
Location	そのサーバスイッチの場所（設定可能）
Support Contact	そのサーバスイッチのサポート情報（設定可能）
Rack Locator UID (select chassis)	現在は使用されていません。
SystemSyncState	システムの同期状態の情報が表示されます（Cisco SFS 7008 の場合のみ）。

ステップ 2 **Backplane** タブをクリックすると、シリアル番号、PCA シリアル番号、PCA アセンブリ番号、FRU 番号、ベース MAC アドレス、シャーシ ID が表示されます。

ステップ 3 **Global Setting** タブをクリックすると、グローバル設定値が表示されます。

Global Settings ウィンドウのフィールドについては、[表 5-2](#) を参照してください。

表 5-2 Global Settings ウィンドウのフィールド

要素	説明
Enable Ib Counter Reset	チェック ボックスをオンにすると、Enable Ib カウンタがリセットされます。
System Operation Mode field	非 VFrame システムの場合は、 Normal オプション ボタンを選択します。VFrame 環境のシステムでは、 VFrameManaged オプション ボタンを選択します。詳細については、VFrame のマニュアルを参照してください。

基本的なシステム情報の設定

基本的なシステム情報とは、デバイスおよびサポート リソースの名前や場所などです。ここでは、これらの情報の設定方法について説明します。

- [InfiniBand スイッチの名前の設定 \(p.5-3\)](#)
- [デバイスの場所の定義 \(p.5-3\)](#)
- [テクニカル サポート リソースの定義 \(p.5-3\)](#)
- [システム動作モードの設定 \(p.5-4\)](#)

InfiniBand スイッチの名前の設定

ご使用のデバイスにホスト名を指定するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューから、**System Info** を選択します。
- System Info ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** そのデバイスに指定したい名前を、System Name フィールドに入力し、**Apply** をクリックします。
-

デバイスの場所の定義

物理的なデバイスの場所に関する説明をスイッチに追加するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューから、**System Info** を選択します。
- System Info ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** Location フィールドに、デバイスの場所を入力し、**Apply** をクリックします。
-

テクニカル サポート リソースの定義

Element Manager のリフレッシュ時または再起動時には、ユーザが定義したテクニカル サポートの E メールアドレスが System フレームに表示されます。テクニカル サポートのリソースを定義するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューから、**System Info** を選択します。
- System Info ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** Support Contact フィールドに、テクニカル サポート プロバイダーの E メール アドレスを入力し、**Apply** をクリックします。
-

システム動作モードの設定

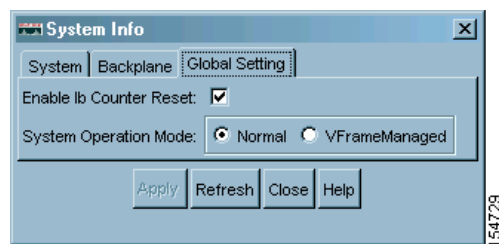
VFrame 環境または非 VFrame 環境に適切に対応するためには、システム動作モードの状態を設定し、サーバスイッチの動作を変更する必要があります。システム動作モードを設定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューから、**System Info** を選択します。

System Info ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Global Setting** タブ (図 5-1 を参照) をクリックします。

図 5-1 Global Settings



ステップ 3 SystemOperMode フィールドで、次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

- 非 VFrame 環境でサーバスイッチを設定する場合は、**Normal** をクリックします。
- VFrame 管理下の環境でサーバ スイッチを設定する場合は、**VFrameManaged** をクリックします。

ステップ 4 **Apply** をクリックします。

日時のプロパティの設定

デバイスでは内部クロックが稼働していますが、デバイスが Network Time Protocol (NTP) サーバにアクセスして、ネットワークと同期をとるようすることを推奨します。

ここでは、日時のプロパティの設定手順について説明します。

- [日時の設定 \(p.5-5\)](#)
- [NTP サーバの指定 \(p.5-5\)](#)

日時の設定

デバイス上の内部クロックの日時を設定するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューから、**Time** を選択します。
- Date and Time Properties ウィンドウが開きます。デフォルトでは Date and Time タブが表示されます。
- ステップ 2** Date フィールドに、*MM/DD/YY* 形式で日付を入力します。
- ステップ 3** Time フィールドに、*HH:MM:SS* 形式で時間を入力し、**Apply** をクリックします。
- ステップ 4** Date and Time パーティションで **Apply** をクリックします。
-

NTP サーバの指定

NTP サーバを指定して、サーバスイッチがネットワークと同期をとるようするには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューから、**Time** を選択します。
- Date and Time Properties ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** NTP Server 1 フィールドに、サーバスイッチが使用する NTP サーバの IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** (任意) スイッチがプライマリ NTP サーバにアクセスできない場合に使用する NTP サーバの IP アドレスを、NTP Server 2 フィールドに入力します。
- ステップ 4** (任意) スイッチがプライマリとセカンダリのどちらの NTP サーバにもアクセスできない場合に使用する NTP サーバの IP アドレスを、NTP Server 3 フィールドに入力します。
- ステップ 5** NTP Servers パーティションで **Apply** をクリックします。



(注) デバイスは、指定された NTP サーバにアクセスできない場合、デフォルトのオンボードクロックを使用します。

ローカル タイムゾーンと夏時間の設定

タイムゾーンと夏時間の設定は、事前に設定された時間帯リストから選択します。手動でも時間帯の名前を入力し、詳細を設定できます。ここでは、次の作業の実行方法を説明します。

- 手動での時間帯と夏時間の設定 (p.5-6)
- 事前に設定されたリストからの時間帯および夏時間の設定 (p.5-7)

手動での時間帯と夏時間の設定

手動で時間帯または夏時間を設定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューから、**Time ...** を選択します。

Date and Time Properties ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Time Zone** タブをクリックします。

ステップ 3 時間帯を設定するには、**Time Zone** セクションに次の情報を入力します。

- Name** フィールドに時間帯の名前を入力します。
たとえば、サーバスイッチが太平洋地域の時間帯を使用している場合、**PST** と入力します。以後、この文字列が、時間を示すメッセージに表示されます。
- UTC** フィールドの **Offset** に、**Coordinated Universal Time (UTC; 世界標準時)** との時差を時間数で入力します。
たとえば、太平洋標準時 (Pacific Standard Time) では **-8** です。

ステップ 4 夏時間を設定するには、**Daylight Saving Time** セクションに次の情報を入力します。

- Name** フィールドに夏時間の名前を入力します。
たとえば、太平洋地域の時間帯の場合は **PDT** と入力します。夏時間が有効なとき、この文字列が時間を示すメッセージに表示されます。
- 夏時間が有効な間、**Local Time** フィールドの **Offset** に時間を進める時間数と分数を入力します。
- Start Date** フィールドに、夏時間を開始する日付を入力します。
日付は、*mm/dd/yyyy* の形式です。
- End Date** フィールドに、夏時間を終了する日付を入力します。
日付は、*mm/dd/yyyy* の形式です。
- Start Time** フィールドに、夏時間を開始する日の時刻を入力します。
時刻は、24 時間形式の *hh:mm* です。
- End Time** フィールドに、夏時間を終了する日の時刻を入力します。
時刻は、24 時間形式の *hh:mm* です。

ステップ 5 **Apply** をクリックします。

事前に設定されたリストからの時間帯および夏時間の設定

事前に設定されたリストから時間帯または夏時間を設定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューから、**Time ...** を選択します。

Date and Time Properties ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Time Zone** タブをクリックします。

ステップ 3 **Select TZ** ボタンをクリックします。

Time Zones ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン メニューから、時間帯を選択します。

ステップ 5 **Details** ボタンをクリックして、時間帯の情報を確認します。

ステップ 6 **OK** ボタンをクリックして、Data and Time ウィンドウの Time Zone タブに選択した時間帯のデータを入力します。

ステップ 7 **Apply** をクリックします。

基本サービスの設定

ここでは、デバイスへのリモート アクセスを簡易化する基本サービスの設定方法を説明します。

- [DNS サーバの指定 \(p.5-8\)](#)
- [FTP アクセスのイネーブル化とディセーブル化 \(p.5-8\)](#)
- [Telnet アクセスのイネーブル化とディセーブル化 \(p.5-9\)](#)
- [Syslog Server の指定 \(p.5-9\)](#)
- [認証方式の指定 \(p.5-9\)](#)
- [RADIUS サーバの表示と管理 \(p.5-11\)](#)
- [TACACS+ サーバの表示と管理 \(p.5-13\)](#)
- [HTTP サービスのイネーブル化 \(p.5-16\)](#)
- [CDP の設定 \(p.5-16\)](#)
- [ディスカバリ キャッシュの表示 \(p.5-17\)](#)

DNS サーバの指定

デバイスに DNS 名を指定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 DNS タブをクリックします。

ステップ 3 Server 1 フィールドに、使用するプライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。

ステップ 4 (任意) Server 2 フィールドに、デバイスがプライマリ DNS サーバにアクセスできない場合に使用する DNS サーバの IP アドレスを入力します。

ステップ 5 Domain フィールドに、そのスイッチを所属させるドメインを入力し、**Apply** をクリックします。

FTP アクセスのイネーブル化とディセーブル化

デバイスへのまたはデバイスからの FTP アクセスをイネーブルまたはディセーブルに設定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 FTP タブをクリックします。

ステップ 3 **Enable FTP Server** チェック ボックスをオンにするか (イネーブル)、またはオフにし (ディセーブル)、**Apply** をクリックします。

Telnet アクセスのイネーブル化とディセーブル化

デバイスへの Telnet アクセスをイネーブルまたはディセーブルに設定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Telnet タブをクリックします。

ステップ 3 **Enable Telnet Server** チェック ボックスをオンにするか (イネーブル)、またはオフにし (ディセーブル)、**Apply** をクリックします。

Syslog Server の指定



(注) ここでは、すでにホストが設定され、InfiniBand ファブリックに接続されているものとして説明します。

デバイスからのログを保存する Syslog Server を指定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Syslog タブをクリックします。

ステップ 3 Remote Syslog Server One フィールドに、デバイスからのメッセージを受け入れるリモート サーバの IP アドレスを入力し、**Apply** をクリックします。

この手順を繰り返して、Remote Syslog Server Two に 2 つめのサーバを追加します。

認証方式の指定



(注) TopspinOS release 2.3.x 以上を使用する SFS Server Switch 製品の設定では、パスワードの保存に 128 ビット MD5 ベースのハッシュ方式を使用します。

デバイスに認証方式を指定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Authentication** タブをクリックします。

ステップ 3 Authentication Method フィールドで、方式を表すオプション ボタンを 1 つクリックし、**Apply** をクリックします。

選択できるオプション ボタンについては、表 5-3 を参照してください。

表 5-3 認証方式

オプション ボタン	説明
local	ユーザのログインをシャーシのデータベースに対して認証します。
localThenRadius	ユーザのログインをシャーシのデータベースに対して認証します。認証に失敗した場合は、設定されている最大 3 つの RADIUS サーバを使用して認証します。ユーザの認証に失敗した場合、または設定されている RADIUS サーバのどれにも到達できなかった場合、そのユーザはアクセスを拒否されます。
radiusThenLocal	設定されている最大 3 つの RADIUS サーバを使用してユーザのログインを認証します。ユーザの認証に失敗した場合、または設定されている RADIUS サーバのどれにもアクセスできなかった場合は、シャーシのデータベースに対する認証を行います。シャーシのデータベースに対する認証が失敗した場合、そのユーザはアクセスを拒否されます。
localThenTacacs	ユーザのログインをシャーシのデータベースに対して認証します。認証に失敗した場合は、設定されている最大 3 つの TACACS+ サーバを使用して認証します。ユーザの認証に失敗した場合、または設定されている TACACS+ サーバのどれにもアクセスできなかった場合、そのユーザはアクセスを拒否されます。
tacacsThenLocal	設定されている最大 3 つの TACACS+ サーバを使用してユーザのログインを認証します。ユーザの認証に失敗した場合、または設定されている TACACS+ サーバのどれにもアクセスできなかった場合は、シャーシのデータベースに対する認証を行います。シャーシのデータベースに対する認証が失敗した場合、そのユーザはアクセスを拒否されます。
radius	設定されている最大 3 つの RADIUS サーバを使用してユーザのログインを認証します。ユーザの認証が失敗した場合、そのユーザはアクセスを拒否されます。認証プロセスでシャーシのデータベースに対するチェックが実行されるのは、RADIUS サーバのどれにもアクセスできない場合だけです。
tacacs	設定されている最大 3 つの TACACS+ サーバを使用してユーザのログインを認証します。ユーザの認証が失敗した場合、そのユーザはアクセスを拒否されます。認証プロセスでシャーシのデータベースに対するチェックが実行されるのは、TACACS+ サーバのどれにもアクセスできない場合だけです。

RADIUS サーバの表示と管理

ここでは、RADIUS サーバの表示および管理方法を説明します。

- [RADIUS サーバの表示 \(p.5-11\)](#)
- [RADIUS サーバの追加 \(p.5-12\)](#)
- [RADIUS サーバの設定の編集 \(p.5-13\)](#)
- [RADIUS サーバの削除 \(p.5-13\)](#)

RADIUS サーバの表示

CLI および Element Manager のログイン認証用としてデバイスに設定した RADIUS サーバを表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Radius Servers タブをクリックします。

Radius Servers テーブルのフィールドについては、[表 5-4](#) を参照してください。

表 5-4 Radius Server Properties ウィンドウのフィールド

フィールド	説明
Address	RADIUS サーバの IP アドレス
Priority	エントリのプライオリティの設定に使用される値。この値を書き込むことはできません。最初に追加されたサーバが最高のプライオリティ（プライオリティ 1）を取得します。 複数の RADIUS サーバが指定された場合、プライオリティの低いサーバよりも先にプライオリティの高いサーバが使用されます。2 つの RADIUS サーバのプライオリティが同じ値になることはありません。
Udp Port	RADIUS サーバの認証ポート。 RADIUS サーバの UDP ポートを設定するには、この値を編集し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする範囲を示しています。
Encryption Key	RADIUS サーバおよびクライアントに使用される暗号鍵。 RADIUS サーバの暗号鍵を設定するには、この値を入力し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする範囲を示しています。
Timeout	Timeout：サーバへの未解決要求のタイムアウト時間。 RADIUS サーバのタイムアウト値を設定するには、この値を編集し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする範囲を示しています。

表 5-4 Radius Server Properties ウィンドウのフィールド (続き)

フィールド	説明
Max Retries	同じ要求をサーバに送信できる最大再試行回数。この回数を超えると要求はタイムアウトになります。 RADIUS サーバが許可する最大再試行回数を設定するには、この値を編集し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする範囲を示しています。
Access Requests	デバイスのブート後にデバイスからサーバが受信した認証要求の数
Access Accepts	デバイス ブート後のデバイスへのログインのうち、サーバが認証した数
Access Rejects	デバイス ブート後のデバイスへのログインのうち、サーバが拒否した数
Server Timeout	デバイス ブート後にサーバでタイムアウトになった認証の数

RADIUS サーバの追加

デバイスに新しい RADIUS サーバを追加するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Radius Servers タブをクリックします。

ステップ 3 Insert をクリックします。

Insert Radius Server ウィンドウが開きます。



(注) **Close** をクリックすると、デバイスに変更を加えずにいつでもプロセスを中断できます。
Apply をクリックするまで、設定は適用されません。

ステップ 4 Address フィールドに、サーバの IP アドレスを入力します。

ステップ 5 (任意) UDP Port フィールドを編集します。

フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。

ステップ 6 (任意) Encryption Key フィールドに暗号鍵を入力します。

ステップ 7 (任意) Timeout フィールドを編集します。

フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。

ステップ 8 (任意) Max Retries フィールドを編集します。

フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。

ステップ 9 **Insert** をクリックします。

RADIUS サーバの設定の編集

RADIUS サーバの設定を編集するには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Radius Servers** タブをクリックします。

ステップ 3 再設定したい RADIUS サーバの列を確認し、編集するセルをダブルクリックします。



(注) 編集できるのは、背景が白いセルだけです。

ステップ 4 セルの内容を編集します。

ステップ 5 **Apply** をクリックします。

RADIUS サーバの削除

RADIUS サーバを設定から削除するには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Radius Servers** タブをクリックします。

ステップ 3 削除したい RADIUS サーバの列をクリックします。

ステップ 4 **Delete** をクリックします。

TACACS+ サーバの表示と管理

ここでは、TACACS+ サーバの表示および管理方法を説明します。

- [TACACS+ サーバの表示 \(p.5-14\)](#)
- [TACACS+ サーバの追加 \(p.5-15\)](#)
- [TACACS+ サーバの設定の編集 \(p.5-15\)](#)
- [TACACS+ サーバの削除 \(p.5-16\)](#)

TACACS+ サーバの表示

CLI および Element Manager のログイン認証用としてデバイスに設定した TACACS+ サーバを表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Tacacs Servers タブをクリックします。

TACACS+ Servers テーブルのフィールドについては、表 5-5 を参照してください。

表 5-5 TACACS+ Server Properties ウィンドウの要素

フィールド	説明
Address	TACACS+ サーバの IP アドレスが表示されます。
Priority	エントリのプライオリティの設定に使用される値。この値を書き込むことはできません。最初に追加されたサーバが最高のプライオリティ（プライオリティ 1）を取得します。 複数の TACACS+ サーバが指定された場合、プライオリティの低いサーバよりも先にプライオリティの高いサーバが使用されます。2 つの TACACS+ サーバのプライオリティが同じ値になることはありません。
Udp Port	TACACS+ サーバの認証ポート。 TACACS+ サーバの UDP ポートを設定するには、この値を編集し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。
Encryption Key	TACACS+ クライアントおよびサーバに使用される暗号鍵。 TACACS+ サーバの暗号鍵を設定するには、この値を入力し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする範囲を示しています。
Timeout	サーバへの未解決要求のタイムアウト時間。 TACACS+ サーバのタイムアウト値を設定するには、この値を編集し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする範囲を示しています。
Max Retries	同じ要求をサーバに送信できる最大再試行回数。この回数を超えると要求はタイムアウトになります。 TACACS+ サーバが許可する最大再試行回数を設定するには、この値を編集し、 Apply をクリックします。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。
Access Requests	デバイスのブート後にデバイスからサーバが受信した認証要求の数
Access Accepts	デバイスブート後のデバイスへのログインのうち、サーバが認証した数
Access Rejects	デバイスブート後のデバイスへのログインのうち、サーバが拒否した数
Server Timeout	デバイスブート後にサーバでタイムアウトになった認証の数

TACACS+ サーバの追加

デバイスに TACACS+ サーバを追加するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。
Services ウィンドウが開きます。
 - ステップ 2** Tacacs Servers タブをクリックします。
 - ステップ 3** Insert をクリックします。
 - ステップ 4** サーバの IP アドレスを入力します。
 - ステップ 5** (任意) UDP ポートをデフォルト値から変更します。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。
 - ステップ 6** (任意) 暗号鍵を入力します。
 - ステップ 7** (任意) タイムアウトをデフォルト値から変更します。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。
 - ステップ 8** (任意) 最大再試行回数をデフォルト値から変更します。フィールドの右側の数字は、このフィールドがサポートする整数値の範囲を示しています。
 - ステップ 9** Insert をクリックします。
-

TACACS+ サーバの設定の編集

TACACS+ サーバを編集するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。
Services ウィンドウが開きます。
 - ステップ 2** Tacacs Servers タブをクリックします。
 - ステップ 3** 再設定したいサーバの列を確認し、編集するセルをダブルクリックします。



(注) 編集できるのは、背景が白いセルだけです。

- ステップ 4** セルの内容を編集します。
 - ステップ 5** Apply をクリックします。
-

TACACS+ サーバの削除

デバイスから TACACS+ サーバを削除するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Tacacs Servers タブをクリックします。

ステップ 3 サーバを選択します。

ステップ 4 Delete をクリックします。

HTTP サービスのイネーブル化

HTTP サービスを設定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 HTTP タブをクリックします。

ステップ 3 Enable HTTP Server チェック ボックスをオンにします。

ステップ 4 (任意) HTTP Port フィールドにポートを指定します。

ステップ 5 (任意) Enable HTTP Polling チェック ボックスをオンにします。

ステップ 6 (任意) Enable HTTPS Server チェック ボックスをオンにします。

ステップ 7 (任意) HTTP Port フィールドにポートを指定します。

ステップ 8 Secure Cert Common Name フィールドからセキュリティ方式を選択します。

ステップ 9 Apply をクリックします。

CDP の設定

CDP は、ネイバーおよび状態に関する情報を検出します。CDP サービスを設定するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Discovery** タブをクリックします。

ステップ 3 **Run Discovery** チェック ボックスをオンにして、検出をイネーブルにします。

ステップ 4 (任意) 現在の値をクリックし、5 ~ 254 秒の新しい値を入力することにより、メッセージの間隔を変更します。

ステップ 5 (任意) 現在の値をクリックし、10 ~ 255 秒の新しい値を入力することにより、ホールドタイムを変更します。

ステップ 6 **Apply** をクリックします。

ディスカバリ キャッシュの表示

ディスカバリ キャッシュ を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Services** を選択します。

Services ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Discovery Cache** タブをクリックします。

ブート設定のカスタマイズ

ブート設定をカスタマイズするには、次の作業を行います。

- 次回のリブート時にスイッチがブートするイメージを表示します。
- スタートアップ コンフィギュレーションを削除します。
- ファイル システム内の別のコンフィギュレーション ファイルで、スタートアップ コンフィギュレーションを上書きします。

ここでは、次の作業の実行方法を説明します。

- [リブート イメージの設定 \(p.5-18\)](#)
- [スタートアップ コンフィギュレーションの削除または上書き \(p.5-18\)](#)

リブート イメージの設定

サーバ スイッチがリブート時にロードするイメージを選択するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Boot Config** を選択します。

Boot Configuration ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Image Source For Next Reboot ドロップダウン メニューから、リブート時にサーバ スイッチにブートさせたいイメージを選択します。

ステップ 3 Software Images パーティションで **Apply** をクリックします。

スタートアップ コンフィギュレーションの削除または上書き

スタートアップ コンフィギュレーションの削除または上書きは、次の手順で行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Boot Config** を選択します。

Boot Configuration ウィンドウが開きます。

ステップ 2 (任意) 現在のスタートアップ コンフィギュレーションを別のコンフィギュレーション ファイルに置き換える場合は、**Overwrite startup configuration with** オプション ボタンをクリックし、ドロップダウン メニューから設定を選択します。



(注) 実行コンフィギュレーションでスタートアップ コンフィギュレーションを上書きする手順は、「[実行コンフィギュレーション ファイルのバックアップ](#)」(p.5-19) を参照してください。

ステップ 3 (任意) 出荷時のスタートアップ コンフィギュレーションを使用するようにサーバ スイッチを設定する場合は、**Delete startup configuration** オプション ボタンをクリックします。

ステップ 4 Startup Configuration パーティションで、**Apply** をクリックします。

実行コンフィギュレーション ファイルのバックアップ

実行コンフィギュレーション ファイルをバックアップするには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Backup Config** を選択します。

Backup Configuration ウィンドウが開きます。

ステップ 2 Save Configuration As フィールドにファイル名を入力します。

Element Manager は指定されたコンフィギュレーション ディレクトリに実行コンフィギュレーションを保存します。



(注) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する場合は、このフィールドに **startup-config** を入力します。このプロセスを実行すると、既存のスタートアップ コンフィギュレーション ファイルが上書きされます。

ステップ 3 Save をクリックします。

ファイル システムのファイルの表示と削除

ここでは、ファイル システムの作業と基本的な考え方について説明します。

- [ファイル システムのファイルの表示 \(p.5-20\)](#)
- [ファイル システムのファイルの削除 \(p.5-20\)](#)
- [コンフィギュレーション ファイルの概要 \(p.5-21\)](#)
- [ログ ファイルの概要 \(p.5-21\)](#)

ファイル システムのファイルの表示

イメージ ファイル、ログ ファイル、コンフィギュレーション ファイルなど、デバイス内のファイルを表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**File Management** を選択します。

File Management ウィンドウが開きます。このウィンドウの Current Files on System テーブルのフィールドについては、[表 5-6](#) を参照してください。

表 5-6 Current Files on System テーブルのフィールド

フィールド	説明
Slot ID	ファイルが置かれているコントローラ カードのスロット
File Name	ファイルの名前
File Type	ファイルのタイプ。表示されるタイプは次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • config • log • image
Size	ファイルのサイズ (バイト)
Date	デバイスまたはユーザがそのファイルをアップデートした最新の日時

ステップ 2 (任意) **Refresh** をクリックすると、スイッチへのポーリングが実行され、ファイル システムの最新の状態を反映して表示がアップデートされます。

ファイル システムのファイルの削除

ファイル システムのファイルを削除するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**File Management** を選択します。

File Management ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Current Files on System** テーブルで、削除したいファイルが表示されている行をクリックし、**Delete** をクリックします。

Delete File ウィンドウが開きます。

ステップ 3 Yes をクリックします。

コンフィギュレーション ファイルの概要

コンフィギュレーション ファイルは、CLI コマンドのリストが保存されているテキスト ファイルです。ここでは、コンフィギュレーション ファイルの具体的な例を示します。

- [startup-config ファイル \(p.5-21\)](#)
- [running-config ファイル \(p.5-21\)](#)

startup-config ファイル

主要なコンフィギュレーション ファイルは、`startup-config` と呼ばれています。このファイルには、出荷時の状態から設定を完了するために必要なすべての CLI コマンドが保存されています。このコンフィギュレーション ファイルは、コピー、バックアップ、変更が可能です。

running-config ファイル

GUI または CLI を通じて設定を変更するたびに、`running-config` という仮想コンフィギュレーション ファイルに、CLI コマンドが一時的に保存されます。これらの変更を永続的に保存したい場合は、このファイルを `startup-config` ファイルにコピーします。

コンフィギュレーション ファイルは、いくつでも保存できます。迅速かつ簡便に設定できるようにするため、CLI コマンドの部分リストをファイルに維持することもできます。これらのファイルは、すぐに利用するために `running-config` にコピーしたり、リブートしても永続的に使用できるように `startup-config` にコピーすることも可能です。

ログ ファイルの概要

ログ ファイルは、設定変更も含めて、アクティビティを記録するテキスト ファイルです。ログ ファイルは、そのサイズに応じて循環、圧縮されます。`copy` コマンドを使用すると、ログ ファイルをシステムからエクスポートすることもできます。ここでは、ログ ファイルについて詳しく説明します。

- [ログ ファイルのファイル管理とストレージ \(p.5-21\)](#)
- [ログ メッセージのタイプ \(p.5-22\)](#)

ログ ファイルのファイル管理とストレージ

ログ ファイルの管理は自動的に実行されますが、ユーザがログ ファイルを設定することもできます。ログ ファイルは他のタイプのファイルとは別に保存されますが、すべてのファイルが 128 MB のフラッシュ メモリを共有します。ログ ファイルは `syslog` ファイルに保存されます。

システムはアクティブ ログ ファイルのサイズを 1 時間ごとに確認し、1 MB を超えていると、アクティブ ログ ファイル `ts_log` を閉じて、圧縮し、`ts_log.1.gz` という名前にします。その他の `ts_log.x.gz` ファイルは、1 ずつ数字が大きくなります。これらのファイルは、Log Viewer GUI を使用してダウンロードできます。この GUI では、トラブルシューティングや監査のためのフィルタを作成できます。

ログ メッセージのタイプ

取り込まれるロギングのレベルは次のとおりです。

- CONF — 設定変更。ユーザの操作は必要ありません。
- INFO — 一般情報。ユーザの操作は必要ありません。
- WARN — 異常状態。ユーザの操作が必要な場合もあります。
- ERROR — 異常状態。ユーザの操作が必要です。
- FATAL — 異常状態。ユーザによるリポートが必要です。
- DEBUG — トレースをイネーブルに設定した場合にだけ発生します。『*Cisco SFS Product Family Command Reference*』の **trace** コマンドの説明を参照してください。

ソフトウェア イメージのインストール



(注)

ソフトウェアをインストールする具体的な手順は、「[ソフトウェア イメージのインストール](#)」(p.5-26) を参照してください。ここでは、イメージのインストールに関連する事項について詳しく説明します。

ソフトウェアの設定に使用されるイメージ データは継続的にアップデートされ、強化されています。システムを効率的に利用するためには、最新のシステム イメージを使用する必要があります。最新のアップデートについては、ユーザ サポート ポータル(support.cisco.com) を参照してください。

以下の各項目に分けて、システム イメージのインストールに関する基本的な考え方と手順を説明します。

- [システム イメージ](#) (p.5-23)
- [イメージ ファイル](#) (p.5-23)
- [イメージのコピー / ダウンロード](#) (p.5-25)
- [カードの状態に関する要件](#) (p.5-25)
- [システムのアップグレード](#) (p.5-25)
- [ソフトウェア イメージのインストール](#) (p.5-26)

システム イメージ

システム イメージは、圧縮が解除されたインストール済みイメージ ファイルです。イメージ ファイルは、システム イメージのインストール元であり、.img の拡張子が付けられています。

イメージ ファイルがインストールされると、そのイメージ ファイルはシステム イメージに展開します。システムの各カードの起動に必要なものを指定するためにユーザが確認するのは、システム イメージです。

イメージ ファイル

イメージ ファイルは、.img 拡張子を持つ単一の完全なファイルとしてフラッシュ メモリ内に保存されます。各イメージ ファイルには、システムに搭載できるさまざまなカードに必要なすべてのオペレーティング ソフトウェア (アプリケーション ソフトウェアおよびファームウェア / マイクロコード) が入っています。

システムは、システムの起動に直接イメージ ファイルを使用することはできません。イメージ ファイルを最初にインストールする必要があります。インストールプロセスは、自動的にイメージ ファイルを展開し、システムの各カードにソフトウェア コンポーネントを分散させます。ユーザは個々のソフトウェア コンポーネントを意識する必要はありません。CLI コマンドを 1 つ入力すれば、イメージ ファイルをインストールできます。『*Cisco SFS Product Family Command Reference*』の **install** コマンドの説明を参照してください。

サーバ スイッチのオペレーティング システムは最大 3 つのイメージをディスクに保存します。これらのイメージは、未インストール イメージ、現行のイメージ (インストールされているイメージ)、そしてリカバリ イメージです。

システムには、次のイメージの保存にちょうど必要な容量のフラッシュ メモリがあります。

- システム イメージ ファイル (アクティブ) × 1

■ ソフトウェアイメージのインストール

- イメージファイル（非アクティブ/未インストール）×1
- リカバリ イメージ×1

新しいバージョンを保存するために、InfiniBand システムからイメージファイルを手動で削除する必要がある場合もあります。「[ファイルシステムのファイルの削除](#)」(p.5-20) を参照してください。

ここでは、次のイメージについて説明します。

- [非アクティブ イメージ](#) (p.5-24)
- [アクティブ イメージ](#) (p.5-24)
- [リカバリ イメージ](#) (p.5-24)
- [バージョン番号](#) (p.5-24)

非アクティブ イメージ

非アクティブ イメージとは、ダウンロードされていて、インストールされていないイメージです。アクティブ イメージでもシステム イメージでもありません。

オペレーティング システムが保存できる非アクティブ イメージは1 つだけです。非アクティブ イメージを削除するには、CLI を使用するか（「[ファイルシステムのファイルの削除](#)」[p.5-20] を参照）、または Element Manager で **delete** をクリックします。

アクティブ イメージ

アクティブ イメージは現在のシステム イメージです。インストール済みのイメージまたはアクティブ イメージは、アップグレードプロセスが完了しています。システム イメージは通常、名前にスラッシュ (/) が付いています。インストール済みのシステム イメージを変更したり削除したりしないでください。

リカバリ イメージ

リカバリ イメージとは、システムにインストールされるデフォルト イメージです。リカバリ イメージは、イメージのアップグレードでエラーが発生した場合にシステムの動作をすぐに回復するために使用されます。

バージョン番号

InfiniBand システムがサポートするソフトウェア機能は、稼働しているオペレーティング システムおよびインストール済みのシステム イメージによって決まります。

システム イメージには、次の2 種類があります。

- HCA カード用イメージ
- Cisco SFS 7000D、Cisco SFS 7000、Cisco SFS 7008、Cisco SFS 7008P、または Cisco IB Server Switch Module 用のイメージ

InfiniBand システムを設定する前に、シャーシのブートに使用されるインストール済みシステム イメージのバージョンを確認します。この情報を使用して、適切なソフトウェアにアップグレードしてください。

イメージのコピー / ダウンロード

サーバスイッチのオペレーション システムのアップグレードには、いくつかの手順が必要です。ここでは、これらの手順について説明します。インストール前にイメージをコピーすることも手順の1つです。

表 5-7 にイメージをシステムにコピーする際のオプションをいくつか示します。

表 5-7 イメージのコピー / ダウンロードのオプション

CLI の使用	GUI の使用
FTP	リモート FTP サーバ
TFTP	ローカル ファイル
SCP	リモート セキュア サーバ

カードの状態に関する要件

アップデートできるのは、oper-status が up のカードだけです。インストール時にカードが down 状態の場合、またはインストール後にカードを追加する場合は、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** カードを起動します。
 - ステップ 2** 再度インストールを実行します。
 - ステップ 3** 同じイメージ ファイルを指定します。

そのイメージがすでにカード上にインストールされている場合、そのカードは抜かしてインストールが実行されます。

- ステップ 4** すべてのカードが同じシステム イメージからブートできるように、必ずもう一度 boot-config を指定してください。
-

システムのアップグレード

システムアップグレードプロセスの主な手順は次のとおりです。

-
- ステップ 1** アップグレードに使用するハードウェア接続をセットアップします。
 - ステップ 2** インストール済みのシステム イメージのバージョン番号を確認します。
 - ステップ 3** ネットワークでアクセスできる FTP サーバからイメージをダウンロードするか、リモートの TFTP サーバからイメージ ファイルをダウンロードします。
 - ステップ 4** 新しいシステム イメージをインストールします。
 - ステップ 5** 次回のレポート時に適切なコンフィギュレーション ファイルが使用されるように、CLI と Element Manager を設定します。

ステップ6 システムを再起動します。

ソフトウェアイメージのインストール



(注) サーバスイッチに新しいイメージをインストールする計画を他のユーザに知らせます。

ソフトウェアイメージファイルをインストールするには、次の手順を行います。

ステップ1 **Maintenance** メニューをクリックし、**File Management** を選択します。

File Management ウィンドウが開きます。



(注) ファイル システムにイメージ ファイルをまだインポートしていない場合は、「[コンフィギュレーションファイルとイメージファイルのインポート](#)」(p.5-27) を参照してください。

ステップ2 **Current Files on System** テーブルで、インストールしたいファイルが表示されている行をクリックし、**Install** をクリックします。

確認ウィンドウが開きます。



(注) イメージをインストールする前に、新しいイメージで稼働したいシャーシ上のカードをすべて起動してください。シャーシ内の異なるイメージで稼働するカードはトラフィックを通過させることができません。

ステップ3 **Yes** をクリックすると、イメージがインストールされます。

コンフィギュレーション ファイルとイメージ ファイルのインポート

ここでは、ローカル ホストまたはリモート FTP サーバからサーバ スイッチにファイルをインポートする方法を説明します。

- リモート サーバからのインポート (p.5-27)
- ローカル ホストからのインポート (p.5-27)

リモート サーバからのインポート

リモート デバイスからサーバ スイッチにファイルをインポートするには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**File Management** を選択します。

File Management ウィンドウが開きます。

ステップ 2 **Import** をクリックします。

Import File ウィンドウが開きます。

ステップ 3 File Type ドロップダウン メニューから、インポートするファイルのタイプ (**image** または **configuration**) を選択します。

ステップ 4 **Remote FTP Server** オプション ボタンまたは **Remote SCP Server** オプション ボタンをクリックします。

ステップ 5 Server Name または IP Address のフィールドに、インポートするファイルを保持する FTP サーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。

ステップ 6 User Name フィールドに、その FTP サーバへのログインに使用するユーザ ID を入力します。

ステップ 7 Password フィールドに、その FTP サーバへのログインに使用するパスワードを入力します。

ステップ 8 File Path および Name フィールドに、その FTP サーバ上のファイルのディレクトリ パスと名前を入力します。

ステップ 9 File Name on System フィールドに、サーバ スイッチでのそのファイルの名前を入力します。

ステップ 10 **Copy** をクリックします。

ローカル ホストからのインポート

ローカル ホストからサーバ スイッチにファイルをインポートするには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**File Management** を選択します。

File Management ウィンドウが開きます。

■ コンフィギュレーションファイルとイメージファイルのインポート

ステップ 2 **Import** をクリックします。

Import File ウィンドウが開きます。

ステップ 3 File Type ドロップダウンメニューから、**image** または **configuration** (インポートするファイルのタイプ) を選択します。

ステップ 4 **Local File** オプション ボタンをクリックします。

ステップ 5 **Choose** をクリックして、インポートしたいファイルに移動します。

ステップ 6 インポートしたいファイルを選択して、**OK** をクリックします。

ステップ 7 File Name on System フィールドに、サーバスイッチでのそのファイルの名前を入力します。

ステップ 8 **Copy** をクリックします。

コンフィギュレーション ファイルおよびログ ファイルのエクスポート

ここでは、ローカル ホストまたはリモート FTP サーバにサーバ スイッチからファイルのエクスポートする方法を説明します。

- [リモート サーバへのエクスポート \(p.5-29\)](#)
- [ローカル ホストへのエクスポート \(p.5-29\)](#)

リモート サーバへのエクスポート

サーバ スイッチからリモート デバイスにファイルのエクスポートするには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**File Management** を選択します。

File Management ウィンドウが開きます。

ステップ 2 エクスポートしたいファイルをクリックします。

Export ボタンがアクティブになります。

ステップ 3 **Export** をクリックします。

Export File ウィンドウが開きます。

ステップ 4 **Remote FTP Server** と **Remote SCP Server** のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

ステップ 5 Server Name または IP Address のフィールドに、エクスポートするファイルを受信する FTP サーバの DNS 名または IP アドレスを入力します。

ステップ 6 User Name フィールドに、その FTP サーバへのログインに使用するユーザ ID を入力します。

ステップ 7 Password フィールドに、その FTP サーバへのログインに使用するパスワードを入力します。

ステップ 8 File Path and Name フィールドに、エクスポートするファイルのコピー先となるリモート ホストのパスとファイル名を入力します。

```
/root/files/old-config.cfg
```

ステップ 9 **Copy** をクリックします。

ローカル ホストへのエクスポート

サーバ スイッチからローカル ホストにファイルのエクスポートするには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**File Management** を選択します。

File Management ウィンドウが開きます。

■ コンフィギュレーション ファイルおよびログ ファイルのエクスポート

ステップ 2 エクスポートしたいファイルをクリックします。

Export ボタンがアクティブになります。

ステップ 3 **Export** をクリックします。

Export File ウィンドウが開きます。

ステップ 4 **Local File** オプション ボタンをクリックします。

ステップ 5 **Choose** をクリックします。

ステップ 6 ファイルのコピー先ディレクトリに移動し、**OK** をクリックします。

ステップ 7 **Copy** をクリックします。

コンフィギュレーション ファイルの保存

シャーシのスタンバイ コントローラに実行コンフィギュレーションをバックアップするには、**Maintenance** メニューをクリックし、**Save Config** を選択します。



(注)

マスター イメージの設定を変更し、それを保存する場合は、マスターとバックアップの同期が実行されていて、バックアップにも設定が保存されることを確認する必要があります。詳細については、「[データベース同期の設定](#)」(p.8-14) を参照してください。

Element Manager を使用したサーバスイッチのリブート

Element Manager を使用して サーバスイッチをリブートするには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Reboot** を選択します。

ステップ 2 **OK** をクリックします。

一般的な診断の実行

ここでは、シャーシ、カード、ポートの診断方法を説明します。

- シャーシの診断の実行 (p.5-32)
- カードの診断の実行 (p.5-32)
- カードテストエントリの削除 (p.5-33)
- ポートの診断の実行 (p.5-33)
- ポートテストエントリの削除 (p.5-34)
- 設定済みの診断テストの実行 (p.5-34)

シャーシの診断の実行

シャーシの診断を実行するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > General** を順番に選択します。
 - ステップ 2** Chassis タブをクリックします。
 - ステップ 3** Module Type フィールドのオプション ボタンから、診断したい要素のタイプをクリックします。
 - ステップ 4** Module Number フィールドに、診断したい要素のインデックス番号を入力します。
 - ステップ 5** Test フィールドのオプション ボタンから、実行したいテストのタイプをクリックします。
 - ステップ 6** Iterations フィールドに、テストの実行回数を入力します。
 - ステップ 7** Action フィールドで、**start** オプション ボタン (テストの開始) または **stop** オプション ボタン (テストの終了) をクリックします。
 - ステップ 8** Option フィールドで、適用するエラー条件をクリックします。
 - ステップ 9** **Apply** をクリックすると、コンフィギュレーションが実行され、テストが開始または停止します。
-

カードの診断の実行

カードの診断を実行するには、次の手順を行います。

-
- ステップ 1** Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > General** を順番に選択します。
 - ステップ 2** Card タブをクリックします。
 - ステップ 3** **Insert** をクリックします。

Diagnostic Insert Card ウィンドウが開きます。
 - ステップ 4** Card ドロップダウン メニューから、テストしたいカードを選択します。

ステップ 5 Test フィールドで、実行するテストのタイプをクリックします。

ステップ 6 Iterations フィールドで、テストの実行回数をクリックします。

ステップ 7 Action フィールドで処理を選択します。

- **Insert** のクリック時にテストを実行したい場合は、**start** オプション ボタンをクリックします。
- テストをテーブルに表示するだけで、実行しない場合は、**stop** オプション ボタンをクリックします。あとでテストを実行する場合は、「[設定済みの診断テストの実行](#)」(p.5-34) を参照してください。

ステップ 8 **Insert** をクリックします。

カード テスト エントリの削除

カード テスト エントリを削除するには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Diagnostics > General** を順番に選択します。

ステップ 2 **Card** タブをクリックします。

ステップ 3 削除したいエントリの列をクリックし、**Delete** をクリックします。

ポートの診断の実行

ポートの診断を実行するには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Diagnostics > General** を順番に選択します。

ステップ 2 **Port** タブをクリックします。

ステップ 3 **Insert** をクリックします。

Diagnostic Insert Port ウィンドウが開きます。

ステップ 4 Port フィールドにポートを入力するか、... ボタンをクリックしてポートを選択してから、**OK** をクリックします。

ステップ 5 Test フィールドで、実行したいテストのオプション ボタンをクリックします。

ステップ 6 (任意) データを検証する場合は **Data Validation** チェック ボックスをオンにします。

ステップ 7 Data Size フィールドに、送信したいデータ パケットのサイズ (ビット) を入力します。

ステップ 8 Data Pattern フィールドに、テストで繰り返すデータ パターンを入力します。

ステップ 9 Iterations フィールドに、実行回数を入力します。

■ 一般的な診断の実行

ステップ 10 Source ID フィールドに、発信元のローカル ID を入力します。

ステップ 11 Target ID フィールドに、宛先のローカル ID を入力します。

ステップ 12 Action フィールドで処理を選択します。

- **Insert** のクリック時にテストを実行したい場合は、**start** オプション ボタンをクリックします。
- テストをテーブルに表示するだけで、実行しない場合は、**stop** オプション ボタンをクリックします。あとでテストを実行する場合は、「設定済みの診断テストの実行」(p.5-34) を参照してください。

ステップ 13 **Insert** をクリックします。

ポート テスト エントリの削除

ポート テスト エントリを削除するには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Diagnostics > General** を順番に選択します。

ステップ 2 **Port** タブをクリックします。

ステップ 3 削除したいエントリの列をクリックし、**Delete** をクリックします。

設定済みの診断テストの実行

すでに **Diagnostics** ウィンドウに追加されている診断テストを実行するには、次の手順を行います。

ステップ 1 **Maintenance** メニューをクリックし、**Diagnostics > General** を順番に選択します。

ステップ 2 実行したいテストに適したタブをクリックします。

ステップ 3 実行するテストのエントリを確認します。

ステップ 4 Action カラムで、そのエントリのセルをクリックし、ドロップダウン メニューから **start** を選択します。



(注) セルに **stop** が表示されていないと、このプロセスは機能しません。セルに **start** が表示されている場合は、この手順を実行する前に、ドロップダウン メニューから **stop** を選択し、**Apply** をクリックしてください。

ステップ 5 **Apply** をクリックしてから、何度か **Refresh** をクリックして、テストの経過をトレースします。

POST 診断の表示

ここでは、カード、電源モジュール、ファンの Power-on Self-Test (POST; 電源投入時自己診断) の表示方法を説明します。

- カードの POST 診断の表示 (p.5-35)
- 電源モジュールの POST 診断の表示 (p.5-35)
- ファンの POST 診断の表示 (p.5-36)

カードの POST 診断の表示

カードの POST 診断を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > POST** を順番に選択します。

ステップ 2 Card タブをクリックします。

表 5-8 のフィールドが表示されます。

表 5-8 カードの POST のフィールド

フィールド	説明
Slot ID	スロット番号
POST Status	次の値で POST の結果が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • unknown • passed • failed
PostErrorCodes	POST 中に検出されたエラーが表示されます。

電源モジュールの POST 診断の表示

電源モジュールの POST 診断を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > POST** を順番に選択します。

ステップ 2 Power Supply タブをクリックします。

表 5-9 に、電源モジュールの POST フィールドを示します。

表 5-9 電源モジュールの POST のフィールド

フィールド	説明
PS ID	電源モジュール番号
POST Status	次の値で POST の結果が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> unknown passed failed
PostErrorCodes	POST 中に検出されたエラーが表示されます。

ファンの POST 診断の表示

ファンの POST 診断を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > POST** を順番に選択します。

ステップ 2 Fan タブをクリックします。

表 5-10 に、ファンの POST のフィールドを示します。

表 5-10 ファンの POST のフィールド

フィールド	説明
Fan ID	ファン番号
POST Status	次の値で POST の結果が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> unknown passed failed
PostErrorCodes	POST 中に検出されたエラーが表示されます。

FRU 診断の表示

ここでは、カード、電源モジュール、ファンの Field-Replaceable Unit (FRU; 現場交換可能ユニット) 診断の表示方法を説明します。

- カードの FRU 診断の表示 (p.5-37)
- 電源モジュールの FRU 診断の表示 (p.5-37)
- ファンの FRU 診断の表示 (p.5-38)

カードの FRU 診断の表示

カードの FRU 診断を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > FRU Error** を順番に選択します。

ステップ 2 Card タブをクリックします。

表 5-11 に、カードの FRU のフィールドを示します。

表 5-11 カードの FRU のフィールド

フィールド	説明
Slot ID	スロット番号
FruError	この FRU ユニットでハードウェア エラーが検出されている場合は、最後に検出されたエラーが表示されます。この変数への戻り値は、そのデバイスの重要な製品データから読み取られます。

電源モジュールの FRU 診断の表示

電源モジュールの FRU 診断を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > FRU Error** を順番に選択します。

ステップ 2 Power Supply タブをクリックします。

表 5-12 に、電源モジュールの FRU のフィールドを示します。

表 5-12 電源モジュールの FRU のフィールド

フィールド	説明
PS ID	電源モジュール番号
FruError	この FRU ユニットでハードウェア エラーが検出されている場合は、最後に検出されたエラーが表示されます。この変数への戻り値は、そのデバイスの重要な製品データから読み取られます。

ファンの FRU 診断の表示

ファンの FRU 診断を表示するには、次の手順を行います。

ステップ 1 Maintenance メニューをクリックし、**Diagnostics > FRU Error** を順番に選択します。

ステップ 2 Fan タブをクリックします。

表 5-13 に、ファンの FRU のフィールドを示します。

表 5-13 ファンの FRU のフィールド

フィールド	説明
Fan ID	ファン番号
FruError	この FRU ユニットでハードウェア エラーが検出されている場合は、最後に検出されたエラーが表示されます。この変数への戻り値は、そのデバイスの重要な製品データから読み取られます。